

## ➤ ケブカトラカミキリについて

ケブカトラカミキリは体長8～14mmほどで、主にイヌマキ、ラカンマキ、ナギの3種を食害します。人に害を及ぼすことはありませんが、水や養分の通り道である樹皮下の形成層を食害するため、一部または全体が枯死します。県内では平成28年に松浦市で初めて確認され、令和5年春に県内各地で被害が確認されています。

本虫は、4～6月に被害木から脱出・交尾して7月頃まで樹皮の隙間に産卵します。産み付けられた卵は、10日ほどで幼虫になり、樹皮下に潜って10月頃まで食害します。その後、材内で蛹から成虫になり越冬します。



写真①：被害事例

## ➤ 被害の特徴

### ①葉の色つやが悪く、黄変し、やがて枯死する(写真①)

侵入開始から数年をかけて食害が形成層を一周すると枯死に至ります。目に見える被害は葉色の変化から始まり、最終的には枯死します。

### ②幹がリング上に盛り上がる(写真②、写真③)

木が食害された傷を治そうとして、幹が盛り上がる場合があります。

### ③脱出孔が開く(写真④、写真⑤)

①、②の被害は他の病害虫でも同様の症状がでることもありますが、脱出孔が確認できれば、ケブカトラカミキリによる被害の可能性が高くなります。樹皮を剥いて食害痕が確認できれば断定できます。



写真②：幹のリング状隆起



写真③：食害痕



写真④：脱出孔  
直径約3～4mm



写真⑤：地際の脱出孔

## ➤ 防除方法

### 被害木の伐採・処分、成虫脱出期の薬剤散布

成虫が脱出して外に出てくる4月～6月の2週間毎に樹幹に薬剤散布を行ってください。また、被害の拡大を防ぐためにも被害木をよく観察し、3月までを目標に伐採・処分を行ってください。伐採だけでなく焼却、燻蒸、破碎のいずれかの処分を行ってください。地際からも成虫が脱出しますので、伐採後の切り株にも薬剤処理を行ってください。

商品名	種類	適用作物	適用害虫	希釈倍数等	使用方法 / 総回数
スミパイン乳剤	MEP乳剤80	樹木類	カミキリムシ類	50～150倍	樹幹散布/6回以内
トレボンMC	エトフェンブロックス マイクロカプセル剤	いぬまき	ケブカトラカミキリ	2000倍	散布/6回以内
トレボンEW	エトフェンブロックス乳剤EW	いぬまき	ケブカトラカミキリ	2000倍	散布/6回以内
NCS	カーバム剤	いぬまき (伐倒木)	ケブカトラカミキリ	0.5L/m <sup>3</sup> ・14日以上 1.0L/m <sup>3</sup> ・7日以上	加害伐倒木に本剤を散布し密閉燻蒸する